

災害遺構等名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典
静岡県浜松市細江町細江神社「祇園祭」	地震津波	1498	南海トラフを震源とする巨大地震。浜名湖の今切が決壊し、淡水湖が汽水湖となる。	神体	室町時代	静岡県浜松市細江町		祭礼	～現在	7月第3日曜日にこの津波の際に漂着した御神体を地震厄除の神として祀る祇園祭が行われている。		地域住民	静岡新聞URL: http://www.at-s.com/news/article%loga%west%58628.html
天正地震	地震	1586	日本海側の若狭湾から太平洋岸の三河湾に及ぶ歴史上類を見ない大地震。山崩れによる帰雲城の埋没や長浜による液状化による水没などがあつた。若狭湾・伊勢湾での津波被害も	地層	災害発生時(1988年の発掘調査で発見)	愛知県清須市	液状化の噴砂が噴出した痕跡、17世紀初頭の「清洲越」の瓦が存在することから、天正地震の痕跡として確認できる。	展示		名古屋大学減災館において、液状化痕跡の剥ぎ取り標本が常設展示されている。		地域住民	福和委員報告 2015.10.15
徳島県海陽町の大岩慶長宝永地震津波碑	地震津波	1605	慶長9年の南海地震、宝永4年の東南海地震	石碑	慶長碑:寛文4年(1664) 宝永碑:不明	徳島県海部郡海陽町	鞆浦港近くの大岩。慶長南海地震と宝永地震津波の碑文が同一の岩の側面に刻まれている。						「徳島県防災・危機管理情報安心とくしま」URL: http://anshin.pref.tokushima.jp/docs/2012082900077/
寛文近江・若狭地震～都も揺れた湖国の地震～	地震	1662	近畿地方北部一帯に大きな被害を出した内陸地震。被災地域全体で死者700～900人、倒壊家屋4000～4800軒。双子地震。	地形	災害発生時	琵琶湖西岸内陸部葛川谷	町居崩れと呼称されるこの大規模土砂崩れで形成された天然ダム(河道閉塞)が冠水し、大池が残った。						『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2011
				地形	災害発生時	福井県三方郡御浜町・三方上中郡若狭町	三方五湖:三方湖・水月湖・菅湖・久々子湖・日向湖から成り、菅湖から久々子湖に流れる気山川の地盤が寛文の大地震による浅井了意『かなめいし』。地震によって八坂神社の石鳥居が倒壊し、地震に驚いた茶屋の客たちが逃げ回っている様子が描かれて						北原委員報告 2015.10.15
				絵図	1996	東京堂出版							
明暦江戸大火～「火災都市」炎上～「花のお江戸」最大の大火～	火災	1657	江戸を襲った大規模火災の最初であり、最大規模の火災。被害者数6～7万人か。	古文書	災害発生時	東京都立中央図書館所蔵(港区南麻布5-7-13)	朝井了意『むさしあぶみ』、炎の中を逃げ惑う群集や幕府による粥施行の様子の挿絵が記載され、死者は10万人台と述べられて	研究		江戸幕府によって定火消制度の創設、自主的な防災組織の発足のはじまり。		研究者	『災害史に学ぶ-風水害・火災編』2011
				石碑	1657	東京都墨田区両国2-8-10(回向院内)	「石造明暦大火犠死者等供養碑」を建てた当時は老若男女が参詣していた。現在は東京都の指定文化財とされている。						
宮崎県・外所地震の供養碑	地震津波	1662	日向灘地震としては最大クラス。延岡、房総半島に被害。7ヶ村水没。	石碑	1705年頃、以後50年ごとに新造	宮崎県宮崎市木花地区	島山集落に存在している、外所地震の犠牲者の供養碑である。	祭礼	1805～2007	50年ごとに供養祭が行われ、その度に供養碑を建立し、慰霊を続けている。		地域住民	宮崎日日新聞URL: http://www.47news.jp/ysma/localnews/hotnews%2012%10%350-3.php
元禄地震	地震津波	1703	M7.9～8.2と推定される。関東大震災と同様の海溝型地震。大正関東大震災よりも地殻変動が大きいものであつた。液状化現象も発生。関東全体の被災	地形	災害発生時	千葉県南房総市白浜フラワーパーク内	元禄地震により南房総の海岸線が隆起した。南房総伊勢船島は元禄地震以前は海中に浮かぶ島であつたが、元禄地震による隆起のため現在は陸地となっている。						北原委員報告 2015.10.15
宝永地震	地震津波	1707	南海トラフのほぼ全域にわたりプレート間の断層破壊が発生したと推定され、記録に残る日本最大級の地震とされてきた。高知などでは液状化が発生。	データベース	2014	「宝永地震被害城郭データベース」URL: https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=zY9K-Q7KwmiLkgfMRELygZM&	「楽只堂年録」(宝永4年柳沢吉保の公用日記)の城郭被害に関する記述を抜き出し、該当する城郭の所在地をマップ化、マーカーをクリックすると地震に関する絵図・文書などが表示される。						北原委員報告 2015.10.15
印南(いなみ)町の津波記録と印南(いなみ)中学校における教育実践	地震津波	1707	宝永4年の南海トラフ地震で印南集落に被害。これを教訓に安政南海津波では溺死者を出さなかった。	位牌	不明	〒649-1534 和歌山県日高郡印南町印南2259	宝永津波溺死者の合同位牌	教育	2005～現在	印南中学校では2005年より学習において10年に亘り津波研究と防災啓発を取り込み、中学生の手による史料解説や津波解説板の設置を実施。	印南中学校	中学生・地域住民	紀州新聞「印南中生徒が貴重な防災資料「かめや板壁」解説に取り組む」 http://blog.goo.ne.jp/ks-press/m/201508
				石碑	不明	〒649-1534 和歌山県日高郡印南町印南2260	印定寺境内の宝永津波での教訓を刻んだ碑。						
				古文書(板)	不明	〒649-1534 和歌山県日高郡印南町印南2261	本郷かめやの倉庫板壁に記された安政津波の教訓						
和歌山県白浜町の飛鳥神社祭礼における「津波警告板」の活用*和歌山県指定有名民俗文化財	地震津波	1707	宝永4年の津波の際、高瀬村の住民が被災、家財に心を寄せた者が溺死	古文書(板)	不明	和歌山県白浜町富田	地震や津波を経験した住民たちが後世の人々に伝えようと草堂寺住職に依頼して製作した津波掲示板である。	行事	1707～現在	現代においても祭礼の際には津波掲示板の読み上げが行われている。		地域住民	和歌山県立博物館ニュースURL: http://kenpakunews.blog.120.fc2.com/blog-entry-475.html
富士山宝永噴火	地震火山	1707	富士山麓で小地震が続き、噴火直後には大地震が発生した。噴煙は東麓地域をはじめとして小田原や江ノ島の上空を覆い、大雨のような降土をもらたした。	絵図	江戸時代		「富士山宝永噴火之図」東麓の御殿場付近から見た噴火の様子が記されている。	防災	2004	火山灰の分布などから宝永噴火の規模を想定したハザードマップの作成	富士山ハザードマップ検討委員会	地域住民	『災害史に学ぶ-火山編』2011
				自然物	災害発生時		富士山東麓の火山礫・火山灰						

災害遺構等名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典	
伊那谷遺産(池口崩れ・小道木(こどうぎ)の埋没)	地震	1715	未の満水(ひつじのまんすい)	自然物	不明	長野県駒ヶ根市	天然ダム、埋没林	イベント		天竜川災害伝承シンポジウム(2015.5.29)		地域住民	天竜川上流河川事務所 URL: http://www.cbr.mlit.go.jp/tenryo/tenryo/news/14_041/041.html	
八重山地震津波をめぐり伝統祭祀ナーバイ、慰霊祭	地震津波	1771	八重山地震(明和の大津波)により宮古・八重山列島で死者・行方不明者12,000					行事	～現在	津波よけや豊作を願う宮古島での伝統祭祀「ナーバイ」、女性達の安寧の祈りと男性の舟漕ぎの模倣儀礼。		地域住民		
								行事	～現在	津波死亡者に祈りを捧げる慰霊祭の実施。		地域住民		
浅間山天明噴火	火山	1783	鳴動が響き、噴火の際に黒煙が柱のように登った。火口からは軽石や火山灰が降り注ぎ、日を追うごとに噴火の勢いは激しくなった。	地形	災害発生時	群馬県吾妻郡嬭恋村大字鎌倉	鬼押し出し:浅間山の噴火で流れ出した溶岩の一角で、その姿がまるで鬼が押し出して作ったようだとされたことから「鬼押し出し」と命名される。						『災害史に学ぶ-火山編』2011	
				資料館	1984	群馬県吾妻郡嬭恋村鎌原494	嬭恋郷土資料館:浅間山噴火の際、土石流に埋没した鎌原村落の出土品や、土石流に埋没した犠牲者の遺体などが発掘された。これらの展示物は鎌原観音堂に併設する嬭恋郷土資料館にて展示されている。						北原委員報告 2015.10.15	
寛政の津波供養碑	津波火山	1792	寛政4年、普賢岳火山活動の山体崩壊の土砂が有明海に流入し、対岸の島原で10,000人、熊本で5,000人が死亡	石碑	不明	熊本県宇土市	円応寺供養塔をはじめ、熊本県内に74基の供養塔が確認されている。						宇土市デジタルミュージアム URL: http://www.city.ut.o.kumamoto.jp/museum/pro/kinsei/kanseinotu/namikuyouhi.html	
おなり神(雷神碑)	地震津波水害	1835	天保年間の地震・洪水・火事・凶作の災害をうけ、天保10年に住民達が雷神碑を建立。	石碑	1840	宮城県宮城野区原町	天保年間に大地震、火事など相次いで起きたため、その供養に雷神を祀り、雷神碑を建てた。				公益財団法人みやぎ・環境とくらしネットワーク水部会	地域住民	「水の神さま」をさがせ URL: http://www.melon.or.jp/melon/contents/Section/Water/wg/profiles/profile023.html	
善光寺地震～人気観光地を襲った内陸地震～	地震	1847	逆断層運動を起こして発生。揺れは300km以上離れた所でも観測。	地形	災害発生時	長野市信更町岩倉山	虚空蔵山崩壊、犀川せき止め:岩倉山(虚空蔵山)で発生した斜面の崩落は犀川に65mもの高さの巨大堰き止め湖を生じさせた。これによりふもとの村は川水を招き入れ水没。	研究		洪水後の千曲川の堤防修復は幕府や河川流域の藩も資金負担をする国役普請となり、人足として農民が駆り出されて賃金が支払われた。これ一種の失業対策事業であり、また、より広域で復興資金を負担する方法であった。		地域住民・観光客	『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2012	
				石碑	1848	善光寺(長野県長野市元善町491)	善光寺境内にある「地震横死塚」身元不明者の鎮魂のため建立した。							
				建築	災害発生時	善光寺(長野県長野市元善町491)	善光寺本堂の柱、地震でねじれたものを修復維持							北原報告委員 2015.10.15
				絵図	1849	真田宝物館蔵(長野市松代町松代4-1)	松代藩で作成された善光寺地震の被害の様子の絵図(「信州地震大絵図」)							
安政南海地震・安政南海地震～幕末大地震の主役～	地震津波	1854	海域に起きる巨大地震であるために、海底の変動も大きく大きな津波が伴う。最大震度7	石碑	1855	大阪府(浪速区幸町三丁目 大正橋東詰)	大正橋に存在している『大地震両川口津浪記』。碑文には、安政南海時地震の半年ほど前に起こった伊賀上野地震による大阪の様子や、多くの人が小舟に避難したことが						『災害史に学ぶ-海溝型地震・津波編』2011	
				モニュメント	1999	和歌山県田辺市新庄町3259-4内之浦干潟親水公園	1854年安政南海地震と1946年昭和南海地震の際にこの地を襲った津波の高さを示す潮位標モニュメントを設置した。							
				小説	1896		浜口梧陵の史実を元にしたラフカディオ・ハーン著「A Living God」の中で紹介。史実とは若干の違いも存在。	教育	1937-1947	地元出身教員の中井常蔵がハーン作品を教材化し、文部省教材公募に入選したのが『稲むらの火』			地域住民	
				絵図	江戸時代		広村津波図							
安政南海地震津波碑「大地震両川津浪記」の墨入れ行事と地蔵盆	地震津波	1854	安政元年の地震津波の際、地震を恐れて小舟に避難した人々が津波に呑まれ、また地震によって発生した火事によって多数の死者があった。	石碑	1855	大阪府大正区	宝永4年にも津波被害がありながらも安政に再度被害を出したことを悔やみ、後世の人々が同じ被害を受けないように警告をこめて、地震・津波の知識や教訓を刻んだ石碑である。	行事	150年前～現在	毎月8月の地蔵盆に地域の人々が集まって石碑を洗い、文字が読みやすいように「墨入れ」をし供養を行っている。		地域住民	大阪毎日新聞 URL: http://www.nnn.co.jp/dainichi/rensai/oskroman/150131/20150131_044.html	
「稲むらの火」と津波祭の「土盛」	地震津波	1854	安政南海地震の際、広村の名主・濱口梧陵による避難民の救済とその後の広村堤防の修造。	古文書	2007	和歌山県広川町	濱口梧陵生家及び関係史料群							
				建築	1924	和歌山県広川町	濱口梧陵の建設した広村堤防。	行事		毎年11月に梧陵の遺徳を偲び「津波祭」を実施。「土盛」で新たな土を堤防に入れて補修を促す。			和歌山県ふるさとアーカイブURL: http://wave.pref.wakayama.lg.jp/bunka-archive/matsuri/tunami.html	
				資料館	2007	〒643-0071 和歌山県有田郡広川町広671	「稲むらの火・津波防災教育センター」として史料の展示や防災体験室を設置。							
安政江戸地震～江戸直下で暴れた大鯨～	地震火災	1855	東京湾北部を震源とする。M6.9～7.1。江戸の直下型地震か。	古文書	江戸時代		『安政地震焼失図』火災が起こった江戸市中の30数箇所の詳細なまとめが記載されて						『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2013	
				絵図	江戸時代	東京大学史料編纂所蔵	『江戸大地震之図』:屋敷住居、長屋、馬屋などが潰れ、主人が庭に避難しており、遠くでは火災が発生している様子を描いてい							

災害遺構等名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典	
				絵図	江戸時代	東京大学総合図書館蔵	『地震火災版画帳交帖』:地震後に出された鯨絵。鯨絵とは、地震を起こした鯨を懲らした様子を漫画に仕立てた錦絵である。							
飛越地震～山が崩れ、洪水も起きた！～	地震 洪水	1858	大地動乱期に起きた内陸直下型地震。	古文書	江戸時代	富山県立図書館蔵	『越中山変事録』には、大量の土石や流木をまじえた土石流が下流の村々を襲ったときの様子が記されている。						『災害史に学ぶ～内陸直下型地震編』2014	
				自然物	1858	富山県立山町	『安政の大転石』は、大洪水によって常願寺川から流されてきたもので直径5.6m、推定400トンもある。水の力が持つ恐ろしさを物							
長崎市太田尾町 山川河内地区 「念仏講まんじゅう」	土石流	1860	万延元年の集中豪雨と土砂災害により33人の被害者が発生。					行事		毎月14日に「念仏講まんじゅう」を全世界に配布。仏壇に供えた後に家族で分け合う。		地域住民	消防防災博物館URL: http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index2.cgi?ac1=B742&ac2=B74201&ac3=6987&Page=hpd2_view	
浜田地震	地震	1872	震度7と推定される。浜田市内の死者は536人、家屋全壊は4506棟、地震発生の一週間前より前震を観測。	石碑	明治	島根県浜田市牛市町	震災祈念碑						北原委員報告 2015.10.15	
磐梯山噴火	火山	1888	水蒸気爆発型噴火	写真	災害発生時	磐梯山噴火記念館(福島県耶麻郡北塩原村 桧原字剣ヶ峰1093-36)	火口付近に多くの噴気が立ち上がっている様子が撮られている。(北麓からの磐梯山と噴火直後の磐梯山)、「磐梯山噴火之図」	教育		帝国大学理科大学(現在の東京大学理学部)初代地震学教授の関谷清景氏は、この噴火のあと直ちに現地に入り調査にあたり、石版画スケッチを製作した。このスケッチは、現在でも多くの内外の火山学教科書に引用されている。		学校関係者	『災害史に学ぶ～火山編』2011	
				絵図	1889	国立科学博物館蔵(東京都台東区上野公園7-20)	噴火後の噴出物分布図(農商務省地質局調査報告書掲載)、磐梯山噴火の幻灯写真	教育		『磐梯山に強くなる本』として福島県火山学協会が、中学生向けに防災に対する知識と対策を伝えている本。		教員・学 齢児童		
				地形	1888	桧原湖、小野川湖、秋元湖、五色沼など	旧長瀬川などの多くの河川が埋没したために次第に水を蓄えて、多くの湖沼(天然ダムによって形成された貯水池)が形成された。							
				地形	1888	福島県猪苗代町・磐梯町・北塩原村	磐梯山の山体崩落:水蒸気爆発が引き金となり、磐梯火山で大きな崩壊が発生。岩屑なだれにより長瀬川がせき止められ、桧原湖、小野川湖、秋元湖、五色湖が形成され							
エルトゥール号 事件～人々が災 害対応意識を自 覚～	台風	1890	台風のため航行不能のエルトゥール号が和歌山県大島の樫野崎近郊で海難に遭遇。死者約500名の我が国海難史上未曾有の被害を出す。	絵図	1939	日土協会会報	当日の海難の様子を伝える錦絵						『災害史に学ぶ～風水害・火災編』2011	
				写真	1937	駐日土耳其大使館『土耳其國軍艦エルトグルル』	生存者写真							
				古文書	1890	トルコ記念館(串本町樫野1025-26)	大島村で救助した船員の診断書							
				古文書	1890	トルコ記念館(串本町樫野1025-26)	『土耳其軍艦アルトグラ一號遭難時取扱二係ル日記』—船員の救助にあたった沖周村長	行事		慰霊碑の前で、犠牲者を弔うと同時に事件の記憶を語り継ぐ式典が約5年ごとに行われている。		地域住民		
				石碑	1891	串本町樫野	慰霊碑							
濃尾地震～近代 の幕開けの巨大 地震～	地震 土石流	1891	日本の内陸で発生する地震としては最大級のもの。震源付近では震度7。揺れは広範囲に及ぶ。	石碑	1893	岐阜市忠節町4丁目	濃尾震災横死群霊碑						『災害史に学ぶ～内陸直下型地震編』2015	
				石碑	1908	名古屋市中種区城山新町・尋盛寺	震災横死者供養塔:「七千百十五精霊 濃尾大震災横死者供養塔」と刻まれる。							
				建築	1893	岐阜県若宮町	震災記念堂・衆議院議員天野若園の呼びかけにより建立。							
				地形	災害発生時	岐阜県本巣市根尾谷水鳥地区	根津谷断層:日本で確認できる最古の地震断層。国指定の特別天然記念物に指定されている。	教育	2007	「濃尾地震と根尾谷断層」を題材としたビデオ教材・デジタル教材の開発と小学6年生・中学1年生の理科の授業における導入。	岐阜大学教 育学部	教員・学 齢児童		
庄内地震	地震	1894	最大震度は当時の震度階級において最大の烈震を記録。現在の震度7相当か。余震も多数	写真	災害発生時	東京都科学館	写真帖					北原委員報告 2015.10.15		
明治三陸地震津 波～地震の揺れ は弱いのに大津 波～	地震 津波	1896	地震30分後に巨大津波が押し寄せ、死者22000人となる。”前触れなき大地震”と言われる。	写真	災害発生時	仙台市博物館(仙台市青葉区川内26番地)	『風俗画報』釜石市街を襲う津波や被災地の様子を描いたもの。	研究		地理学者・山口弥一郎による明治三陸津波後高台移転の結果について、昭和三陸津波との比較から調査したもの。		研究者	『災害史に学ぶ～海溝型地震・津波編』2011	
				絵図	1896	国立国会図書館蔵	『風俗画報臨時増刊第百十九号、大海嘯被害録中巻』口絵							
明治29年6月15 日の津波記念碑	地震 津波	1896	明治三陸地震津波における大船渡市三陸町吉浜の被害。津波後の高台移転事業。	石碑	1897	岩手県大船渡市	正寿印門前、明治三陸地震津波の195名の死者名を記す。							
「子供水防団活 動」——自分の 身は自分で守る	水害	1898以降 複数	北海道長沼の明治31年大水害	記録		北海道長沼町		防災		子供水防団のハザードマップの作成	河川愛護団 体リバー ネット21な	地域住民	「子ども水防団の訓練 安全に避難するための避 難体験学習会の開催」 URL: http://www.kawaikobanet.com/	
桜島噴火	火山	1914	1914年1月12日に桜島が噴火した。黒煙を吹き上げ全島を覆い、噴火の約8時間後にはマグニチュード7.1の地震をもたらした。大災害の割りには人的被害は最小限に食い止められ、島民の死者・行方不明者は30名	石碑	1924	東桜島小学校校庭(鹿児島市東桜島町17番地)	火口付近に多くの噴気が立ち上がっている様子が撮られている。(北麓からの磐梯山と噴火直後の磐梯山)	防災	1987～	京都大学防災研究所他が、山頂噴火の直前予知システムを開発した。噴火の予兆が捉えられるようになり、警告もしやすくなって		地域住民	『災害史に学ぶ～火山編』2011	
				写真	1914	鹿児島県立博物館蔵(鹿児島県鹿児島市 城山町1-1)	1914年1月12日午前11時の硝煙の様子と牛根村の降灰状況をとらえた写真	防災	2010～	『桜島火山ハザードマップ』と題して、噴火の前兆、避難場所(経路)、などを掲載している。毎年爆発記念日の1月12日には総合防災訓練が行われ、住民の防災に対する意識		地域住民		

災害遺構等名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典	
			であった。	石碑	1996	種子島西之表市	溶岩によって住む家はおろか土地まで失い、耕作不能になったため、島民2000戸、大隅半島の住民500戸にもなる人々が、種子島、宮崎県霧島山麓、朝鮮全羅道に移った。それを記念して「移住記念碑」を建て							
関東大震災～日本史上最悪の自然災害～	地震 火災 津波 土石流	1923	死者・行方不明者約105000人に達し、我が国の歴史史上最悪の自然災害。火災による死者13000人、全潰による死者11000人。	写真	1923		『関東大震災写真帳』(東京婦女界社)	研究		東京市長・後藤新平主導の帝都復興計画。街路や公園の整備した近代的な町並み、幹線道路をグリーンベルトとして整備、永代橋などの近代コンクリート建築物の増加、中央卸売市場・ゴミ処理場・浄水場など、現在の		自治体	『災害史に学ぶ -海溝型地震・津波編』2011	
				写真	1923	伊勢原市議会事務局所蔵(神奈川県伊勢原市中348)	土砂流失写真							
				建設	1930	東京都墨田区横網町2丁目3番20号	横網町公園・復興記念館:関東大震災時、陸軍兵舎跡地に避難した人々が火災旋風により38,000人が死亡。49日に府市協同の大追悼式を挙げる。皇室・有志者の寄付で震災の翌年に設立された財団法人同潤会による青山アパートメント、現在も表参道ヒルズの一角に保存。	祭礼	1924～現在	東京府市合同で震災犠牲者一周年祭抱擁遺構、毎年慰霊祭を実施。	東京都慰霊協会	自治体・地域住民		
				景観	1924	東京都渋谷区神宮前四丁目								
十勝岳噴火	火山	1926	1925年2月頃より小規模な噴火を繰り返していたが次第に活発化し、1926年5月からは小火口を形成するなど大規模な噴火が発生した。大規模な水蒸気爆発が起こり中央火口丘の西半分が崩壊、これにより生じた岩層なだれは噴火から約1分で火口から2.4kmの地点にあった硫黄鉱山の平山鉱業所宿舎を飲み込み、さらに山頂付近の残雪を融かして泥流を発生させた。火山弾・スコリア流によるものも含めると、上富良野を中心に死者・行方不明者144名、負傷者200名、流失・破壊家屋372棟という大災害となった。	写真	1980	上富良野町郷土資料館(北海道空知郡上富良野町富町1丁目3番30号)	『大正15年十勝岳大爆発記念写真集』破壊された流木とともに流されてきた家屋や流木を敷き詰めたようになった富良野川の写真。	イベント		十勝岳では、火山砂防事業に本格的に着手して以降、現場技術者の中で火山防災事業を地域の一環として活用できないか、と「親と子のセット」による小学生の火山砂防事業の見学会などが開かれた。この取り組みによって、防災教育や教訓の伝承がされてい		地域住民	『災害史に学ぶ -火山編』2011	
				写真 地形	1926 1926			泥流被害:爆発により中央火口丘の北半分が破壊され、崩壊物質は北斜面を火山泥流となって流下し、途中から大量の水が加わり、美瑛川、富良野川を高速で流下。犠牲者、建造物、耕地に大きな被害を出した。						
				資料館	1992	北海道十勝郡美瑛町字白金	十勝岳火山防災センター:十勝岳の監視と展示機能を持ち、緊急時には非難施設となる砂防情報センターが、美瑛川に橋をかけて対岸の高台に作られた。上富良野の平野部には、砂防堰堤工事の廃土を活用して新幹線沿いの田畑をかさ上げし、避難所の機能をもつ防災センターが設置された。							
				石碑	1934	岩手県宮古市重茂字姉吉	岩手県宮古市重茂字姉吉に「大津浪記念碑」が建てられ、この碑がある高さより下に作業小屋以外の建物は建てるなど警告している。	伝承		三陸地方に伝わる「津波でんでんこ」。誰も構わず自分だけを守り、高台へ避難すること。		地域住民	『災害史に学ぶ -海溝型地震・津波編』2011	
昭和三陸地震津波～地震海鳴りほら津波～	地震 津波	1933	震度5。三陸地方沿岸部を津波が襲う。釜石町で大火発生。田老村で1000人以上の死者・行方不明者。	写真 建築	1934		『岩手県昭和震災誌』 田老村で「万里の長城」と呼ばれる頂戴な防潮堤を建設							
				石碑 建築	1934 1941	大船渡市	「地震、海鳴り、ほら津波」の碑文の津波碑 海面の変動を察知し、自動的に市街地にサイレンを鳴らす。							
				石碑	1934	岩手県宮古市	東京朝日新聞社の出資で津波碑の建立。	防災		昭和三陸津波発生の日3月3日に防災訓練の実施。	地元消防署	地域住民	洋野町の津波証言 URL:http://memory.eve.jp/tsunami/shogen-iv-hirono.html	
昭和8年3月3日の津波記念碑	地震 津波	1933	昭和三陸地震津波の被災地。	石碑	1934	岩手県宮古市								
第一次室戸台風被災慰霊祭	台風	1934	第一次室戸台風の際、大阪地域の木造校舎の倒壊により児童や保護者に多くの被害があった。	石碑	2008	大阪府	1934年9月21日に近畿地方を襲った第一次室戸台風による犠牲者・負傷者の方々の慰霊と、この悲劇を忘れぬように2008年に室戸台風慰霊碑を建立した。							住吉小学校ホームページURL:http://swa.city-osaka.ed.jp/weblog/index.php?id=e731661&type=1&column_id=105256&ca
東南海地震～隠された大震災～	地震	1944	M7.9。昭和の東南海地震といわれる。震度5～6。津波の高さは北牟婁郡尾鷲町で9m。死者の多くは津波による死者。	新聞	1944.12.8	東京大学地震研究所蔵(東京都文京区弥生1-1-1)	戦時中の報道管制により、救助・復興作業が「快調」「迅速」に進んでいる。	イベント		「1944年東南海地震災害教訓の抽出・絵画化プロジェクト」(木村玲欧代表)による体験談の収集および絵画化		地域住民	『災害史に学ぶ -海溝型地震・津波編』2011	
三河地震～戦時下で発生した連続震災～	地震	1945	M6.8の内陸直下型地震。20世紀に起きた日本の被害地震の中で6番目に多いもので、極めて大きな被害が発生。	地形	災害時	愛知県額田郡幸田町深溝	深溝(ふこうず)断層:水田の中央を東西に走っている活断層が隆起した結果形成されたもの。最大落差は約1.5メートル。地表のズレを示した支柱で落差を可視化。							『災害史に学ぶ -内陸直下型地震編』2016
カスリーン台風～未曾有の号がもたらした利根川流域の土砂災害と	台風	1947	中流部の利根川の堤防が決壊、氾濫流が埼玉、東京を襲った。	写真		渋川市(旧敷島村)敷島氏役場(群馬県渋川市石原80)	『沼尾川流域災害記録』、『敷島村誌—昭和22年9月の大洪水』	防災	1949	水防に関する諸制度を一体化、水防法の公布		自治体	『災害史に学ぶ -風水害・火災編』2011	
				写真	1955	桐生市(桐生市政新聞)	『桐生市水害写真史』							

災害遺構等名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典	
洪水氾濫～				写真	1950	埼玉県立浦和図書館(さいたま市浦和区高砂3-1-22)	『昭和22年埼玉県水害史附録写真帳』							
				写真	1997	埼玉新聞社(さいたま市北区吉野町2-282-3)	『報道写真集カスリーン台風』							
				建築		板倉町	「水塚」…邸内に2～3メートル程度の盛り土、その上に建物を設置し、食料・飲料水を							
				石碑	1948	「決壊口跡」カスリーン台風利根川決壊口跡								
福井地震～空襲・地震・火災・水害一連続する複合災害～	地震 火災	1948	M7.1。震源近くの集落の住家が全壊。都市直下の地震。福井県を中心に死者3769人、住家等の全壊36184棟の大きな被害	構造物			福井地震で被害を受けた酒伊ビルは、修復して現在中央三井信託銀行として残存					地域住民	『災害史に学ぶ～内陸直下型地震編』2017	
平和池	水害	1951	昭和26年7月の集中豪雨で決壊、75名の死者。	資料館		京都府亀岡市	地元有志による水害資料の収集、展示。	防災	2002	平和池水害特別委員会		地域住民	篠町自治会URL: http://shinocho.hetemil.jp/shinocho/?page_id=	
あの日を忘れない～伊勢湾台風の災害を語る会～	台風	1956	伊勢湾台風					イベント イベント		防災講演、子供達の地域学習交流。 長島町の地元の子供に伊勢湾台風体験者の説明会。	長良川河川 工事事務所	地域住民	伊勢湾台風50年『あの日を忘れない～伊勢湾台風の災害を語る会～』を開催 URL: http://www.water.go.jp/honsya/honsya/pamphlet/kouhoushi/2009/pdf/0909-07.pdf	
狩野川台風の記憶をつなぐ会	台風	1958	昭和33年狩野川台風	資料館	1997	〒410-2204 静岡県伊豆の国市堀之上467-2	狩野川資料館でのビデオ上映、文庫資料・パネルの展示	記録収集		印刷物や映像の収集	沼津土木工 事事務所 長、沼津・三 島市町首 町、市民団	有識者	沼津河川国道事務所 URL: http://www.cbr.mlit.go.jp/numazu/river/tsunagu/index.html	
伊勢湾台風～未曾有の高潮がゼロメートル地帯を襲う～	台風 水害	1959	東海地方を中心に中国・四国地方から北海道までの広い範囲で死者・行方不明者5098人の大災害。この災害を契機として『災害対策基本法』が制定。	写真	1999	木曾川下流河川事務所(三重県桑名市大字福島)	『自然とひとのかかわり—伊勢湾台風から40年』	防災		災害対策基本法の整備		自治体	『災害史に学ぶ～風水害・火災編』2011	
				写真		中日新聞社	『伊勢湾台風の全容』	防災	1991	名古屋市臨海部防災条令＝津波・高潮・出水による災害危険区域の指定、居住室を有する建築物、公共建築物の床の高さや構造		自治体		
				写真	1959	NHK出版	『放送文化』—被災地の速報版							
チリ地震津波～地球の裏側からの大津波～	地震 津波	1960	北海道から沖縄までの日本太平洋沿岸、地震もないのに思いもよらぬ津波に襲われる。	石碑 写真		東桜島小学校校庭(鹿児島市東桜島町17番地) 上富良野町郷土資料館(北海道空知郡上富良野町富町1丁目3番30号)	2基の記念碑、それぞれ『地震があれば津波の用心』『地震がなくとも津波は来る』と記 『大船渡災害誌』						『災害史に学ぶ～海溝型地震・津波編』2011	
「伊那谷三六災害」有線放送・記念誌、歌舞伎、記録文集等	豪雨 土石流	1961	昭和36年集中豪雨、飯田市などで土石流発生	災害記録				イベント		「三六災害50年シンポジウム」		地域住民		
								イベント		(演劇)「演劇的記録三六災害五十年」	地元演劇集 団			
								教育		「三六災害から50年 土砂災害・水害に備え」	教材配布			
								イベント		(歌舞伎)「三六災害半世紀」	中尾座			
津波痕跡データベースシステム	地震	1498以降 複数	有史以来の歴史津波	データ ベース	2007	津波痕跡データベース URL:http://irides.tohoku.ac.jp/project/tsunami-db.html	津波に関連する史料・伝承を専門家による精査によって痕跡の信頼度を付与。信頼度の高い痕跡データの検索機能。				東北大学災 害科学国際 研究所、原 子力安全基 盤機構	研究者、 企業企業		

災害遺構等名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典			
三重県地震碑・津波碑の集成『いのちの碑』	地震津波	1496以降複数	明応地震津波 宝永地震津波 安政南海津波	石碑・刊行物	2015	三重県内	三重県内における地震碑、遺戒碑などの写真・所在地等のデータを収録している。				新田康二 (三重県南伊勢高等学校教諭)	教育関係者	新田康二「三重県の地震碑・津波費等一覧表」と「水害碑・洪水碑・治水碑など一覧表」について」(『三重社会』60)2015年。			
四国防災八十八話	地震津波水害	複数	有史以来の洪水・土砂災害・濁水・高潮・津波	データベース	2008	四国防災八十八話URL: http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/dmi/web88_0807/	四国四県で発生した洪水・土砂災害などの歴史や伝承をまとめ公開している。				国土交通省 四国地方整備局、愛媛大学	地域住民・学齢児童				
天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会	水害	江戸時代以降複数	江戸時代から明治・大正・昭和の天竜川災害					防災	2007	災害教訓伝承事例のとりまとめ、巨訓電抄ツール、伝承授業、伝承講座、散策	座長:笹本正治信州大学教授を中心とする学識経験者・教育関係者(平成19～)	有識者	天竜川上流域 災害教訓伝承手法 実践の手引きと実例 URL:http://www.cbr.mlit.go.jp/tenryo/flood/densho/pdf/tebiki.pdf			
津波デジタルライブラリ	津波	明治以来複数	明治三陸地震津波、昭和三陸地震津波、昭和南海地震、昭和東南海地震	データベース	2003	津波デジタルライブラリURL: http://tsunami-dl.jp/	過去の津波に関する論文・報告書・雑文・新聞記事をまとめ公開している。津波費の写真・所在情報も掲載。				津波デジタルライブラリ作成委員	研究者、企業				
四国防災アーカイブス	地震津波水害	1896以降複数	四国での災害	データベース		四国防災アーカイブスURL: http://www.shikoku-saigai.com/	四国内の郷土史、写真集、論文等の収集し被害の様子を掲載している。				四国災害アーカイブズ事業検討委員会	地域住民				
水害情報発信—水害の記録と記憶—(滋賀県HP)	水害	1933以降複数	滋賀県内で発生した水害	データベース		水害情報発信サイト:URL http://www.pref.shiga.lg.jp/kyuuki/hanran/	滋賀県内の水害に関する「記録と記憶」の収集・整理				滋賀県	地域住民	水害情報発信—水害の記録と記憶—URL: http://www.pref.shiga.lg.jp/h/kyuuki/hanran/index.html			
地すべり資料館	地すべり	奈良、鎌倉時代	昔、比丘の所にお経を書いてもらいに来ていた猿が、頭を土に埋めて死んでいた。『今昔物語』	伝承資料館	不明 1992	新潟県上越市 〒944-0125新潟県上越市板倉区猿供養寺402-1	奈良時代や鎌倉時代の伝承が残る”猿供養寺”の地名・伝承について映像などを展示									
名古屋大学減災連携研究センターの取り組み	地震津波		南海トラフ巨大地震等の危険が指摘される東海圏(愛知・静岡・岐阜・三重)の歴史災害情報の発信や防災意識の啓発活動	資料館	2014年	減災館	減災ギャラリーとライブラリを設置、一般市民に開放し、最先端の減災研究や歴史災害についての常設展やパネルと紙芝居を作成した企画展を実施。また各地でキャラバン隊が展示会を開催。愛知県内の碑・史跡について位置情報や関係情報を集約・整理	研究	2012～	中部「歴史地震」研究懇談会:歴史地震に興味ある全ての市民が参加を目指して活動。事務局を名古屋大学連携研究センターにおき、年2回の会合をもち、会員から研究成果を発表する。	名古屋大学	地域住民	福和委員報告 2015.10.15			
					データベース	2014年	歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイトURL: http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/	「減災さんの歴史地震記録伝承WEBサイト」地域に残る地震の記録について、碑・史跡・資料・古文書・研究資料などの情報を掲載し、県民の防災意識向上を目指す。	研究		減災連携センター内の勉強会として、様々な分野の研究者20人弱で勉強会を実施。	減災館教員	研究者			
					ガイドマップ	2012～	歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイトURL: http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/	歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイドとして愛知県を6つのブロックにわけ、碑・史跡や被災を受けた記録のある場所をプロットし、周辺情報を記載したガイドを発行。キャラバン隊(災害伝承伝え隊)が派遣先で配布。	イベント	2012～	「新緑ピクニック」名古屋市内の地震関連の史跡についてピクニック形式での町歩きを実施。			地域住民		
					パンフレット	2013～	歴史地震研究プロジェクト http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/	「見てみよう!歴史地震記録と句のあいち」愛知県内の地震にまつわる碑や史跡の紹介、史跡やイベント・名物を交えて紹介。								
					パンフレット	2015～	歴史地震研究プロジェクト http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/	「歴史地震探索まちあるきガイド」指定地域内の地震に関する碑や史跡をめぐるルートを紹介。								

災害時期から対象外

区民参加型「命を守る」防災ワーク	水害	1974	1974年七夕豪雨					防災		「命を守る」防災ワークショップ、まち歩きによる危険箇所のチェック、ハザードマップの	常葉大学社会貢献ボラ	地域住民、大学	常葉大学URL: http://www.tokoha-u.ac.jp/news/150520-
長崎豪雨災害～豪雨災害と斜面都市～	水害	1982	激しい雷を伴う梅雨末期の典型的な集中豪雨であり、短期間の降雨の強さは近年の豪雨災害で最も被害の大きかった諫早豪雨をしのぎ、日本の観測史上最大級。	写真石碑			長崎の写真映像プロダクション 「長崎大水害記念塔」には、長崎市の繁華街・浜町の冠水水位を記されている。また、豪雨災害を踏まえた都市づくりのあり方が地域代償(自治体、商工団体、議員等)も参加した「長崎防災都市構想策定委員会」に	復興		「長崎防災都市構想策定委員会」により、水害で破壊された重要文化財・眼鏡橋の横にバイパス水路を設置のほか、緊急治水ダム事業、安全な斜面の形成、道路網・交通網整備、自主防災組織の育成など総合的な防災		自治体	『災害史に学ぶ—風水害・火災編』2011
酒田の大火～今日の都市火災対策と災害復興の原点となった都市	火災	1976	焼損棟数1774戸。被害総額405億円。	写真		酒田市		復興		延焼を拡大する要因のアーケードをとりやめ、セットバック方式による町作り		自治体・地域住民	『災害史に学ぶ—風水害・火災編』2011

災害遺構等名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典
雲仙普賢岳噴火	火山	1990-1995	1990-1995の内に3回の噴火があった。水蒸気爆発として始まり、噴火で大量の火山灰が山腹に体積した。火砕流が4.3km流下し、島原市北上木場町で死者・行方不明者43人、建物の消失約170棟という被害が出	写真	1991	旧大野木場小学校被災校舎(長崎県南島原市深江町戊3243)	1991年9月15日の火砕流で焼失した深江町立大野木場小学校を撮影したもの(杉本伸一氏撮影)		復興	復興の基本方針を「生活再建」「防災都市づくり」「地域の活性化」を3本柱とした。地域の活性化等の観点から、土地利用、都市計画を見直し、防災施設の有効利用、避難計画および自主防災組織の育成等を行っている。		自治体	『災害史に学ぶ-火山編』2011